

## 平成29年度第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

### 1 日時及び場所

平成29年5月31日（水）  
近畿中国森林管理局4階第3会議室

### 2 議題

- (1) 平成29年度重点取組事項について
- (2) 近畿中国局管内の需給動向について
- (3) 国有林材供給調整の必要性について
- (4) その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

住宅関係では、29年1～3月の全国新設住宅着工戸数が前年比ほぼ横ばいであり、利用関係別では貸家と分譲一戸建てが引き続き好調である。

合板関係では、プレカット工場の消費ペースが落ち着き、納期遅れに解消が見られる。

チップ関係では、需給にひっ迫感は見られない。7月には中国地方で木質バイオマス発電施設の本格稼働が予定されている。

原木関係では、供給減となる米ヒバ土台の代替品として需要増が見込まれるヒノキ4m材が一部地域で高騰している。

現在の木材需給動向について検討した結果、国有林材の供給調整の必要性は認められない。

#### 〈主な情報、意見について〉

##### ○国産材の供給及び価格の動向について

- ・和歌山県では年度末にかけて補助金関係の搬出間伐材が増加したが、新年度は大幅に減少している。特にヒノキの供給量が増えておらず、県内のヒノキ専門の製材工場や米ヒバ土台角の供給タイトに伴う代替品としてのヒノキ土台角への手当てができていない状況である。
- ・最近の木材市場における大径材の動向について、製材用の価格水準に至らなければ木質バイオマス燃料用並みの安価で取引されるものも一部ある。
- ・国産材へのシフトや住宅着工戸数増加に伴う合板需要の増大のため、スギ、カラマツ原木の不足が見られるが、なんとか安定供給に努めている。今後は合板工場（三重県）やCLT工場（京都府）の新設予定があり、原木確保について心配している。
- ・奈良県桜井市の原木市場では、年度末は出材量が増加し4月以降はますます安定していた。伐り旬を過ぎた5月は市況も低迷し出材量は一気に減少。6月以降も梅雨入り等の影響で、8月までは出材量の大幅増加は見込めないと予想している。スギは年度末の出材量増加もあり軟調な相場。ヒノキの供給量は少なく土台角向けの4m材の引き合いが強い。合板・ラミナ向けは安定しており価格の下げはない。下級材はバイオマス需要で安定しており、小径木もその影響から引き続き安定推移している。
- ・ホワイトウッド集成管柱が値崩れした理由の一つとして、スギ集成管柱の生産が挙げられる。全国のいくつかの有力集成材メーカーが生産しており、ホワイトウッド集成管柱のシェアを奪っていると思われる。

### ○原木需要分野（川下）の動向について

- ・林野庁の林業成長産業化地域創出モデル事業に和歌山県の田辺地域が選定された。田辺市を中心に県も一緒に連携して取り組む。
- ・パワービルダーが和歌山県内へかなり進出しているが、紀州材を使っただけの状況にはなかなかない。どのようにして紀州材の需要拡大へ繋げていくかが課題である。
- ・プレカット工場は一定の仕事量を確保しているが、パワービルダー系の旺盛な発注によるものが主体であり地場工務店は盛上りに欠けている。そのため採算が厳しい状況が続いているようである。
- ・全国的に建築関係の職人不足が聞かれる。原因として熊本復興需要や東京オリンピック需要が挙げられるが本格化するのはいずれからだろう。それにより地場工務店の調子はあまり良くないが、一方で一生懸命家を建てているパワービルダーに繋がっているプレカット工場の仕事は順調と思われる。夏場にかけてそれが続けば、木材需要は少し上昇傾向になるのではと予想される。
- ・日本向けに製材品を作っているヨーロッパの有力な集成材工場の稼働が十分ではないため、住宅着工次第では夏にかけて供給が少しタイトになるのではとの話が特に軸材、横架材についてある。
- ・今中国で売れているのは壁材やルーバーであるが、中国の木構造設計規範において構造材としての日本産木材の規定化及び木造軸組構法が位置付けされれば、日本で売れなかった構造材が中国で売れるのではないか。